

公表

保育所等訪問支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援センターどんぐり		
○保護者評価実施期間	R7年 4月 1日		～ R8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	R7年 4月 1日		～ R8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	R7年 4月 1日		～ R8年 3月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団生活への適応がスムーズに行われるために、子どもの発達特性に応じた、具体的な支援方法の提示を行っている。	経験年数のある職員を配置。定期的に児童発達支援管理責任者が同行し、子どもの状況に合わせた支援方法の提示をしている。また、必要に応じて保育所等訪問支援事業と児童発達支援事業の併用を行っている。	職員の資質向上を重ねよりよい支援につなげる。
2	訪問施設、保護者との連携を大切にし、情報共有やカンファレンスを行っている。	訪問施設で実践可能な支援方法、環境調整の提示ができるよう、保護者や訪問先のニーズやお子さんのアセスメントを行い、取り組んできた。また、保護者との連携も図り、家庭と一緒に取り組むことで一貫した支援が行えるように努めた。	訪問回数の調整や訪問先との日程調整を行いながら、訪問施設、家庭でより連携を取りやすいようにしていく。
3	関係機関との連携を行い、支援内容の検討を行っている。	保育所等訪問支援事業を行っている他事業所との合同会議を行い、よりよい支援に向けての情報交流を行っている。	関係機関との連携を一層強化し、地域全体で対象児が支援ができるよう努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援事業の周知	対象児や保護者に直接周知する機会が限られており、利用促進が進みにくい。	ホームページやパンフレットでの情報発信を行う。また、関係機関との連携を一層強化し、事業の利用促進と利用拡大に向けた取り組みを計画的に実施していく。
2			
3			